

博士学位論文

母親のゲートキーピングに関する研究
—乳幼児期の子どもをもつ親を対象として—

令和2年度

金子 楓

筑波大学大学院人間総合科学研究科

ヒューマン・ケア科学専攻

要旨

目的

Puhlman & Pasley (2017) は、母親のゲートキーピングを「父親と子どもの相互作用や父親の育児に対して、母親がコントロール行動、促進行動、抑制行動を用いて日常的に一貫して行う行動で、父親の育児関与に影響を与える親同士の複雑な一連の行動的相互作用」と定義し、コントロール行動、促進行動、抑制行動の 3 側面で測定する必要性を指摘している。国内では、促進行動と批判行動からなる夫婦ペアレンティング調整尺度（加藤・黒澤・神谷, 2014）が作成されているものの、コントロール行動が含まれた尺度は存在しない。しかし、母親が父親に対して働きかけることによって父親の育児・家事が高まることから（中川, 2010）、国内においても母親のゲートキーピングを 3 側面で捉える必要があると考えられる。そこで、本論文では、コントロール行動を含めた母親のゲートキーピング尺度日本語版を作成し、その信頼性と妥当性を検討することを第一の目的とした。

母親のゲートキーピングの関連要因については、多くの研究が行われているものの、一部知見に不一致がある。そこで、本論文では、母親のゲートキーピングの関連要因として、「父親の育児・家事に対する認知やそれによって生じる母親の感情」である父親の育児・家事に対する母親の受け止め方を取り上げることとした。そのため、本論文の第二の目的は、父親の情緒的、情動的、手段的支持に対する受け止め方を網羅的に把握し、サポートごとに受け止め方尺度を作成することであった。そして、本論文の第三の目的は、母親のゲートキーピングと受け止め方の関連を明らかにすることであった。

最後に、本論文の第四の目的は、母親のゲートキーピングが子どもの適応に与える影響の過程を明らかにすることであった。その際、先行研究で子どもの適応と関連が検討されている養育態度、養育スキルを取り上げ詳細な過程を検討した。

以上 4 つの目的について、本論文では 6 つの研究が行われた。

対象と方法

産後初期の母親のゲートキーピングは、父親の育児関与に特に長期的な影響を与える可能性があるため（Schoppe-Sullivan et al., 2015）、本論文の対象者は、乳幼児期の子どもをもつ父母であった。本論文は、全て質問紙調査で行われ、延べ 1368 人の母親、283 人の父親から質問紙を回収した。研究ごとでは、研究 1：母親 313 人、研究 2：父親 101 人、研究 3-1：母親 93 人、研究 3-2・研究 3-3：母親 344 人、研究 4：母親 317 人、研究 5：母親

301 人，研究 6：父親 182 人であった。

結果と考察

研究 1 では母親用，研究 2 では父親用の母親のゲートキーピング尺度日本語版を作成した。その結果，母親用，父親用とも，母親のゲートキーピングは「コントロール」，「促進」，「抑制」の 3 因子構造となることが示された。信頼性について，各下位尺度の内的一貫性を算出したところ，母親用： $\alpha=.74\sim.86$ ，父親用： $\alpha=.67\sim.84$ となった。父親用のコントロールの α 係数は，.67 となったため，今後再度確認する必要がある。妥当性について，母親用は予測と一致した関連を示し，一定の妥当性が確認できたと考えられる。一方，父親用は予測と異なる関連が示された。これには，父親に自身の育児や父子関係を尋ねたため，自身の育児や父子関係について無難な回答をしたことが関係している可能性がある。今後，客観的指標を用いて再検討する必要がある。

研究 3-1 では，母親の受け止め方尺度の項目案を作成するために，自由記述式の質問紙調査を行い，受け止め方尺度の原案を作成した。その後，研究 3-2 において，研究 3-1 で作成された尺度の因子構造の確認，信頼性の検討を行った。その結果，情緒的サポートに対する受け止め方尺度は，「サポートによる復調」，「父親との連帯感」，「サポートへの肯定的評価」，「視野の広がり」の 4 因子から構成された。情動的サポートに対する受け止め方尺度は，「視野の広がり」，「父親への信頼感・安堵」，「否定的受け止め」の 3 因子から構成された。手段的サポートに対する受け止め方尺度は，「肯定的受け止め」，「否定的受け止め」，「父親の成長」，「自分への肯定的認知」の 4 因子から構成された。これら下位尺度の内定一貫性を表す α 係数は全て高い値となり ($\alpha=.87\sim.97$)，信頼性は十分に確認された。続く，研究 3-3 では，研究 3-2 で作成された尺度の妥当性を検討することを目的とした。妥当性は，相関分析，偏相関分析によって検討を行った。その結果，相関分析ではいずれの下位尺度も妥当性検討のために用いた尺度と概ね予測した相関を示した。また，偏相関分析により，いずれのサポートにおいても，母親の育児感情，育児支援感，夫婦関係満足度に対して下位尺度ごとに異なった役割が示された。

研究 4 では，父親の育児・家事と関連のあるデモグラフィック変数，父親の育児・家事に対する母親の受け止め方を用いて，デモグラフィック変数と受け止め方を独立変数，母親のゲートキーピングを従属変数に設定し，階層的重回帰分析を行った。

まず，コントロール行動について，父親以外のサポートが無いこと，父親の育児・家事に対する肯定的受け止めが高い場合，期待量が多いほどコントロール行動は増加することが示された。また，父親の育児・家事に対する否定的受け止めはコントロール行動を増加させ

ることが示された。特に情緒的サポートにおいて、サポートは供給されているものの、供給されているサポートに対して肯定的に受け止められない場合に、コントロール行動が増加することが示された。その他にも、情動的サポートによる視野の広がりや情緒的サポートと情動的サポートの期待量は、コントロール行動を増加させることが明らかとなった。加えて、手段的サポートの供給量はコントロール行動を増加させることが示された。以上のことから、母親はコントロール行動によって、母親の父親の育児・家事に対する思いと実際の父親の育児・家事に生じている不協和を調和させようとしていると考えられる。

次に促進行動について、父親の育児・家事に対する母親の肯定的な受け止めは母親の促進行動を増加させ、否定的な受け止めは促進行動を低下させることが示された。また、手段的サポートによって父親の成長を感じることは、促進行動を低下させることが示された。その他にも、情緒的サポートによって父親との連帯感を抱くことや、情動的サポートによって父親への信頼感・安堵を抱くことは促進行動を増加させることが示された。また、父親の情緒的サポートや情動的サポートの供給量は、促進行動を増加させることが示された。これらの結果から、父親の育児・家事に対して肯定的に受け止めている場合や父親の育児・家事によって父親に支えられているという認知や感情を抱く場合、促進行動は増加するといえる。つまり、母親は促進行動によって、父親に対して信頼や評価を表していると考えられる。

最後に抑制行動について、父親の育児・家事に対する否定的な受け止めは抑制行動を増加させることが示された。また、情動的サポートの期待量は、抑制行動を増加させることが示された。その他にも、情動的サポートが供給されていることは抑制行動を低下させることが示された。つまり、抑制行動は父親の育児・家事に対して否定的に受け止めている場合や、父親のサポートの中でも情動的サポートに影響をうけるといえる。これらの結果から、母親は抑制行動によって母親の疑念や不信感を父親に表していると考えられる。

研究 5 では母親を対象に研究を行い、母親のゲートキーピングの各行動が母親の養育態度、養育スキル、母親が評価する子どもの適応へ与える影響の過程の検討を行った。その結果、コントロール行動は子どもの情緒的問題を高めること、促進行動は、母親の養育態度や養育スキルを介して子どもの適応へ影響を与えることが示された。そして、抑制行動は直接的にも、ネガティブな養育スキルを介して間接的にも子どもの適応へ影響を与えることが示された。研究 6 では父親を対象に研究を行い、母親のゲートキーピングの各行動が父親の養育態度、養育スキル、父親が評価する子どもの適応へ与える影響の過程の検討を行った。その結果、コントロール行動はネガティブな養育行動につながることを示された。抑制行動は、直接的にも、養育態度の応答性や養育スキルを介して間接的にも子どもの適応へ影響を

与えることが示された。また、研究 5, 6 ともに、子どもの性別によって影響が異なることを想定し、多母集団同時分析を行った。その結果、研究 5, 6 どちらも、分散共分散、係数すべてに等値制約を置いたモデルが採用され、子どもの性別による違いはない可能性が示された。

研究 5, 6 の結果をまとめると、母親評定、父親評定とも抑制行動とコントロール行動は、養育態度や養育スキル、子どもの適応へネガティブな影響をもたらすといえる。一方、促進行動については、母親評定のみ、養育態度や養育スキル、子どもの適応へポジティブな影響をもたらすといえる。

結論

本論文では、まず、研究 1,2 により母親用、父親用とも一定の信頼性・妥当性を備えた母親のゲートキーピング尺度日本語版が作成された。そして、研究 3, 4 により、父親の育児・家事に対する母親の受け止め方と母親のゲートキーピングとの関連が明らかとなった。続く、研究 5, 6 では、母親評定、父親評定の母親のゲートキーピングが子どもの適応へ与える影響について、検討が行われ、父母で異なる影響過程が明らかとなった。これらの知見は、今後の母親のゲートキーピング研究やコペアレンティング研究の一助となると考えられる。